



の み が わ

2018年9月19日発行(通算第93号)

連絡先 〒145-0061 大田区石川町1-26-8

発行 呑川の会 代表 高橋 光夫

呑川の会 e-mail: mitsuo.takahashi@nifty.com

呑川の会 HP <http://home.m00.itscom.net/nomigawa/>

高橋会員 HP <http://homepage2.nifty.com/aoiyume/>



秋季・呑川講座 「郷土の川 呑川の今・昔・未来」

～ 池上図書館 1階 講座室 ～

記：白石 琇朗

毎年 冬季に行ってきた恒例の「呑川講座」を季節の良い読書の秋に、交通至便の池上図書館で、**10月27日(土)～11月24日(土) 5週連続講座**と呑川中流ウォークを行います。

*主催：呑川の会・池上図書館

*申込先：区立池上図書館(大田区池上3-27-6) 予約先着順 定員40名

電話：03-3752-3341 FAX：03-3752-9749

*交通：池上線池上駅・大森～蒲田バス池上駅 徒歩4分、
上池上循環バス 池上文化センター 徒歩1分

*講座内容

1. 10月27日(土) 14:00～16:30 「呑川の概要と源流支流」

世田谷区桜新町の最源流からの流れと支流、特に灌漑用水として利用された「池上周辺の六郷用水と呑川の関係」も説明します。

2. 11月 3日(土) 10:00～12:30 「呑川中流ウォーク 御嶽山水神流れ～池上」

集合：御嶽山駅改札前 10時、解散：池上本門寺参道 12時(昼食弁当は講座室で可)

コース：雪谷流れ～水神・東調布公園～呑川水神橋～雪谷・久が原・池上の呑川～堤方橋～六郷用水北堀～本門寺参道(池上図書館)

湧水の流れ、自然河川の流れ、灌漑用水の流れなど、様々な流れを辿ります。

3. 11月 3日(土) 14:00～16:30 「呑川で出会える生き物と花と木々」

コンクリート護岸の川でも、良く見ると沢山の生き物達が必死で生きています。呑川沿いには街路樹のほか、多くの名前が知らない魅力が秘められた野草が見られます。

4. 11月10日(土) 14:00～16:30 「呑川の災害と水環境」

洪水災害の歴史と洪水対策の現状について話します。また、あまり評判の良くない呑川の水、その実際と特徴を科学的に検証し、浄化対策の経過と見通しを説明します。

5. 11月17日(土) 14:00～16:30 「歴史にみる呑川」

「新編武蔵風土寄稿」に書かれた呑川と、都市化の進行の中で起きた戦前の呑川の悩み。戦後、

都市河川廃止論が吹き荒れる中で、呑川はどうして生き残ったのか、どんな水が流れるようになったかを探ります。

6. 11月24日(土) 14:00 ~16:30 「未来の呑川」

未来の呑川はどう変わって欲しいか、皆さんで語りましょう。私達が作った提案(呑川グランドデザイン)の概要も紹介します。

(都市河川 ウォーク)

入間川(いりまがわ)ウォーク(12月1日)のお誘い — 多摩川の支流だった川を探索する —

記：内村 博明

入間川は調布市深大寺東町8丁目付近を源流として南下、甲州街道を横断し現在の野川に合流して多摩川に入ります。昭和42年の野川の河川改修以前は、現在の野川の流れが入間川でした。今回は開渠部の始まりから開放的な野川を歩きます。

【開催日時】 12月1日(土) 集合：京王線つつじヶ丘駅 10:00 改札口

【コース】 つつじヶ丘駅 → 甲州街道 → 入間川上流端 → 実篤公園 → 野川合流点
→ 発明の杜市民緑地 → まちづくりビジターセンター → 上野田橋 → 喜多見不動堂
→ 小田急線成城学園前駅(14時頃解散) → (バス) 東急東横線都立大学駅(全歩程 約5km)

【昼食】 各自用意(つつじヶ丘駅の京王ストアでお弁当購入可) **【参加費】** 500円

【天候】 午後から小雨なら決行。雨天時は翌日2日に順延 **【連絡先】** 080-6572-5227 内村



呑川の洪水

—— 昨今の集中豪雨から ——

記：福井 甫

私が小学6年の時（1947年）、いつも引き合いに出されるキャサリン台風にあい、雪谷中学から新幹線（当時は貨物線で高架ではなかった）を越え、久が原・仲池上地区まで一面の洪水。小学生の腰近くまで水があったと思う。そこで呑川というと私には洪水というイメージが非常に強かった。



呑川
増水
氾濫
妙見
橋
流失



妙見橋
付近の
平間街
道・旧池
上通の
洪水

それが区内で水害そのものも減っている上、1985年以来呑川の水があふれた（溢水）洪水はなくなっているが、洪水の危険がないわけではなく、現在のハザードマップ（**想定雨量 総雨量 589 ミリで最大時間降雨 114 ミリ**）に拠っても呑川流域で雪谷地区、久が原・仲池上地区、池上地区等の浸水が予想されています。

しかし去年の福岡・朝倉を中心とした集中豪雨災害に引き続き今年も広島、岡山、愛媛で200人以上の方がなくなる災害が発生し、雨の降り方そのものが地球温暖化の影響であろうか、全く変わってしまったという印象があります。

そこで去年に引き続き今年もハザードマップの基礎となる浸水予想図の見直し作業の進捗状況について都建設局河川部計画課に呑川の会会員数名とともに先日、訪問しました。

その結果は次の通りです。

- 1 想定雨量は、総雨量 690 ミリ・最大時間降雨 153 ミリとする。
- 2 呑川を含む城南河川地区の浸水予想図は今年度でできよう。

（神田川流域、江東低地については公表済みでハザードマップも作成）

まず最大時間降雨が現在の114ミリという場合、呑川そのもので時間降雨50ミリまでは流せるのであるから単純に計算すると洪水になる降雨量分は114ミリ－50ミリ＝64ミリ分から153ミリ－50ミリ＝103ミリ分と約60%増えることとなります。

実際にどの程度になるかはシュミレーション結果が出なければわからないが、やはり大幅な増加が想定されます。現在のハザードマップ以上に浸水の広さ、深さの拡大が予想されるが、単に浸水の広さ・深さだけでなく、浸水の速さ、継続時間等も考慮して対策を検討しておく必要があるだろう。その具体的な洪水対策は都の浸水予想図とそれに基づく大田区のハザードマップ公表後のことではあります。大田区の場合、多摩川が氾濫した場合広範囲に影響が及ぶが、呑川流域だけに言えば流域面積は狭く、周りは台地で高層建物も多いので適切な対策が取られたら少なくとも人命の損失は避けられるでしょう。

今年度前半期の 大田区との意見交換会の実施報告

記：菊池 均

大田区との間で年に2回の開催を予定している「呑川をきれいにするための意見交換会」が、呑川の会が中心メンバーとして参画する市民団体「呑川流域ネットワーク連絡協議会」の要請で去る6月29日（金）に開催されました。

例年、議題の中心はやはり、西蒲田と中央8丁目地区を中心とする水質汚染対策になりますが、現在の東京都や大田区の取り組みは目黒区、世田谷区を含めた行政の「呑川水質浄化対策研究会」という連携組織を中心に抜本的改善対策を含む総合的な形で推進されています。

そこで私たちとしてはこの汚染対策の推進を見守る一方で、東京の同じような都市河川と比較して、色々な面で大きく遅れが目立つ呑川の景観や、住民への本来は川として寄与できる貴重な環境面での改善の方策についても意見具申や質問を行い、改善を督促して行く方針を取っています。今回提示した質問・要望・提案事項につて、以下にその要旨を紹介します。

<主要な説明要請事項>

1. 呑川の水質浄化対策の内容、特に抜本的改善となる合流改善対策（汚染の主因である降雨時の生下水の越流防止）についての進捗状況の説明
2. 大田区の呑川に関係する今年度予算の内容の説明

<区からの呑川水質調査研究の報告>

総合的な水質浄化による改善効果の検討報告 — （株）建設技術研究所

（目的）悪臭、スカム、白濁化の発生メカニズムの把握

（方法）連続調査／水質底質調査／カメラ調査／堆積物調査

（結果）・2017年8月上旬は少雨、8月中旬降雨以降大量のスカム発生

- ・降雨量、水温、DO、ORP（水中の酸化還元状態数値）、スカム発生状況の分析結果
- ・堆積物は山野橋、御成橋に特に多い。初期降雨で濃い汚濁水の流入でスカム発生。
- ・傾向として、少降雨期間が続いた後の比較的雨量の少ない降雨による越流後に汚染が酷くなる傾向が見られる。 ※今後も継続して研究予定とのことです。

<提 案、要請事項>

1. （提案）「リニア新幹線のトンネル湧水の導入」 — 洗足池付近避難口より

・今回、呑川水質浄化策としての具体的な提案を私達より行いました。良案と考えるので、今後の行政の取り組みを見守って行きます。

内容：別図表示の様に洗足池近辺に工事中のJR東海のリニア新幹線の避難口から通常であれば下水道に放流されるトンネル内湧水を全量洗足池へ導水した上、既存の洗足流れへ導き、呑川へ放流する。このことにより、量は不確定だが呑川の流水を大幅に増やし、浄化を図る。

狙い： ⇒ 洗足池の浄化（水位低下防止） ⇒ 呑川の流水増大、浄化

2. 呑川サイン工事の完成に伴い、住民ピーアールを提案

3. 呑川護岸の要所に施されているヘデラ（ツタの一種）植栽の環境効果について具体的な効果等をもっと付近住民へ向けて説明する手段（説明板設置等）を取った方が良いのでは。

以上

<図の説明>

幹線の避難口までポンプアップが予定されるトンネル内の湧水を（下水へ捨てるのではなく）道路下に導水管を敷設して、洗足池に放流する。その水は既存の洗足流れにより流量を増し、呑川へ流入する。



回答については記載を省略いたしますが、今回は大田区から、川の汚染の原因メカニズムの詳細分析へ向けた積極的な研究の紹介もあり、お互いに刺激し合って、前向きに進める場としての雰囲気は従来以上に感じた次第です。

尚、次回の意見交換会は秋、11月ごろを予定しています。

呑川の野草 シリーズ（1）

「ハゼ蘭」

記：橋本 文興

☆☆☆「ハゼ蘭」は呑川側道に見られる 線香花火のような野草です!!! ☆☆☆

熱帯アメリカ原産で、明治の初期に観賞用に導入された一年草です。丈は15～80cm、葉は幅が広く無毛で柔らかいです。原産地では本種を野菜として茹でて食べているようです。



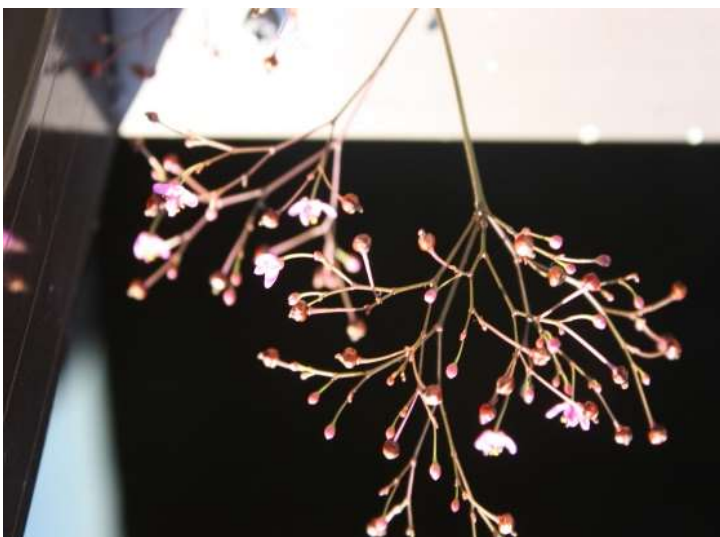
花は7~8月にかけて、分岐の激しい花序をだし、花は小さく（3mm程度）赤紫色の五弁花を開きます。花の名は丸く膨らんだ小さな蕾が弾けるように開き、花が綺麗なことから蘭にたとえられた。長い花茎に点々と付く蕾や実の様子を、線香花火に見立てたという説もあり別名（**花火草**）とも呼ばれます。また午後三時ころ花が咲くことから（**三時草**）とも呼ばれます。種子からの繁殖力が盛んで、栽培されたものが逃げ出し、人家近くの道畑を中心に各地で見られます。観察してみると炎暑の三時から夕方にかけて、小さい花弁が数個見られました。

*スベリヒユ科、 分布：外来（西インド諸島原産）

*一年草：発芽後一年以内に開花・結実し、枯れ死する植物。

*花言葉：真心・三時の貴公子

*参考図書：「雑草や野草がよーくわかる本」 岩槻英明（著）発行（株）秀和システムズ



← ハゼラン（爆ぜ蘭）

五弁の花と蕾

（写真は、上下逆にしてみました。）

おなづか小学校 授業サポート報告

記：安岡 達郎

6月8日（金）と6月25日（月）におなづか小学校にて、4年生の2クラス68人を対象として、呑川に関する授業のサポートを行いました。



(1) 6月8日は、体育館で、呑川のことに関する基礎知識をお話する「事前授業」です。

1) 3校時（45分） 「呑川の概要と歴史」（講師 白石 琇朗）

2) 4校時（45分） 「呑川の生き物と水質」（講師 高橋 光夫）

講義の後に、呑川に関する写真パネルを見ながら、子供たちは熱心に呑川の会のメンバーに質問をしていました。

(2) 6月25日は、呑川の側道を歩いて、呑川を観察するウォーキングです。

池上線の池上駅から御嶽山駅まで移動して、東調布公園からいよいよウォーキング出発です。8つの班に分かれて、13名の会のメンバーがガイドをしました。校長先生、担任の先生、保護者の方も暑い中、一緒に歩いていただきました。子供たちは、普段は見る機会の少ない、川の中、橋、側道などを見ながら、熱心にメモを取り、ガイドにたくさんの質問をしていました。



12時に学校に到着。12時30分から、子供たちと一緒に、お話をしながら給食をいただき、楽しいひと時を過ごしました。11月頃には、授業で、呑川について子供たちが調べたことを、発表するそうです。金子校長先生、古澤先生、山中先生、ウォークをサポートしていただいた保護者の方々、ありがとうございました。

「呑川の会」当面の活動日程（2018年9月～12月）

「呑川ネット・定例会」
9月25日（火）10：00
生活センター・Gr 活動室

「呑川グランドデザイン」のパンフレットが出来、行政へのアピールも始まります。

雪が谷文化センター
「ふれあいまつり」
10月13日（土）～14日（日）

「おた商い観光展」
10月20日（土）～21日（日）
おた産業プラザ「PIO」

「呑川の会・10月定例会」
10月20日（土）13：30～16：30
「蒲田小学校」会議室

*「定例会」の偶数月は「第3土曜」（蒲田小学校）に変わりましたのでご注意ください！

5回連続・呑川講座
「郷土の川 呑川の今・昔・未来」
10月27日（土）～毎週土曜14：00～
池上図書館・1階講座室

久しぶりの池上開催です。11月3日午前には「呑川ウォーク」も行います。

「呑川の会・11月定例会」
11月8日（木）13：30～16：30
「ふれあいはすぬま」

「呑川の会・12月定例会」
12月15日（土）10：00～
「蒲田小学校」

「秋の都市河川ウォーク・入間川」
12月1日（土）10：00
京王線「つつじヶ丘」駅集合

「いるま川」というと、埼玉の川を思い浮かべますが、これは調布市の「いりま川」です。ぜひご参加を

（編集後記）

今夏は猛暑、集中豪雨、台風、地震とこれからの地球がどうなのかと不安にさせる夏でした。地震はたまたま偶然だったでしょうが、今後も偶然重なることはあり得るし、今年の大雨が地滑り、液状化を大きくしたとも言われています。必要以上に不安がる必要はありませんが、冷静に考える必要はあるでしょう。その一つに大田区でも液状化の可能性のある地域はあります。（具体的には大田区のHP参照）

（福井 甫 記）